

竜王南小学校 学校関係者評価書

令和8年2月16日(月)

竜王南小学校 学校関係者評価委員会作成

第1回 学校関係者評価委員会

実施日：令和8年2月10日(火)午後15時30分～

会場：学校会議室

参加者：(学校関係者評価委員) 9名出席

学校運営協議会委員 梶原 照夫 鶴田 重雄 米山 壽浩 新海 淳

P T A会長 清水 静香

学校側 校長 本田 司 教頭 片山 義隆

教務主任 望月 宏樹 生徒指導担当 吉田 圭太郎

I 学校側から提案された内容

- (1) 教職員の自己評価及び改善策
- (2) 児童・保護者アンケート結果

II 協議された主な内容

- (1) 自己評価(教職員・児童・保護者)の結果から
- (2) その他

<学校関係者評価書>

I 全体評価

学校教育目標や学校経営方針に基づいた取組が概ね計画通りに進められており、教職員・児童・保護者のいずれからも様々な項目で高い肯定的評価が得られている。この結果からも、学校全体として共通理解のもとに教育活動が進められていることがうかがえる。

また、報連相を重視した学校運営が行われており、教職員それぞれが共通の指導方針のもと教科指導や生徒指導が行われている。このことが、児童の主体的な学びにもつながり、国語や算数、外国語などの授業を「楽しい」「分かる」と感じている児童の割合がとても高くなっている。

加えて、児童会活動や縦割り活動、教室環境づくり、朝活動、外遊びの推進など、本校の特色ある取組が児童の意欲や人間関係づくりにつながっていることがうかがえる。

一方で、校務支援システムの活用や業務の効率化に関して職員間で取組の差が見られたり、ICTの家庭学習への活用、個に応じた学習支援、キャリア教育に対する児童・保護者の意識などについても取組の理解や実践に差が見られたりする。

また、家庭における読書時間の確保や家庭学習の工夫などにおいて、校内研究会において職員全体で研究を深め、現在の状況を改善していく必要がある。

II 特徴

○学校経営について

学校経営方針や学校教育目標に基づいた教育活動については、肯定的評価(A・B)が100%となった。これは、年度当初および学期始めの職員会議や校内研究会等において校長より学校教育目標や学校経営方針の説明・確認が繰り返し行われていること、また学年主任を中心に重点目標を踏まえた学年経営が実践されていることが要因と考えられる。

さらに、教育活動計画に基づいた実践や、P D C A サイクルを生かした教育活動についても高い自己評価が示された。教職員が計画・実践・評価・改善の循環の重要性を理解し、日常的に意識して取り組んでいる成果である。

一方で、校務支援システムの活用や業務効率化に関しては、A 評価の割合が相対的に低く、一部職員において活用状況に差が見られることが示唆された。今後は学校 D X の視点に立ち、校務のデジタル化をさらに推進し、業務の効率化と働き方改革を継続していく必要がある。

○学習について

授業改善、基礎・基本の定着、協働的な学びの導入等については、肯定的評価が 100% またはそれに近い結果となった。今年度の校内研究テーマ「自ら考え、学ぶ子供の育成に基づいた授業実践が着実に進められていることが要因と考えられる。

児童アンケートでは、授業を「楽しい」と感じている児童や「内容が理解できている」と回答した児童が 9 割を超えており、保護者からも高い評価を得ている。一方で、授業内容の理解に不安を感じている保護者も一定数いることから、個に応じたきめ細かな指導の一層の充実が求められる。

ICT 活用については授業面での進展が見られる一方、宿題での活用には課題が残る。紙媒体との併用や発達段階に応じた活用方法を校内研究の中で検討し、より効果的な運用を図る。

自主学习については、学年目標時間は概ね達成されているものの、主体的な学習への広がり十分とは言えない。学習内容を選択できる仕組みづくりや成果の承認、家庭との連携を通して、自主性を育む支援体制を構築していく。

○生徒指導・児童理解について

学級・学年・学校全体での集団づくりや規範意識の育成については、肯定的な評価が 100% となった。児童の 96% が「学校が楽しい」と回答しており、教育活動全体を通じた取組の成果が伺える。

いじめや不登校の未然防止に関する取組も高く評価されているが、2 学期時点でのいじめ認知件数 14 件、長期欠席児童 25 名という現状を踏まえ、道徳教育や人権教育の充実、家庭との連携による初期対応・継続支援の強化が必要である。

また、「相談できる教師がない」と感じている児童・保護者約 15% 存在することから、相談体制の可視化や担任以外の教職員も含めた支援体制の充実を図ることも考えられる。

○家庭・地域連携について

地域人材の活用や学校開放、情報発信については高い評価を得ている。学年便りやホームページを通じた広報活動は有効な手段として機能していると考えられる。P T A 活動への参加意識は昨年度よりも向上しているが、依然として参加が十分でない層も存在する。今後も引き続き負担感を軽減しつつ、保護者が主体的に関われる活動の在り方を模索

していく必要がある。

家庭での読書習慣の定着には課題が見られる。学校での朝読書の取組を家庭へつなげる工夫や、地域図書館の活用促進など、家庭と連携した読書環境づくりを推進する。

Ⅲ 今後の課題として意識されたこと

- 南部公民館の図書館を利用することを児童や保護者に勧めることが、家庭での読書時間の確保や地域の図書館利用に関する現在の状況を改善することにつながると思われる。
- 規範意識を高めたり、道徳心を養ったりするためには、家庭での教育も重要になる。そのため、学校と家庭がより連携し、子どもの教育にあたることをなお一層進めていくことが求められる。
- 保護者との相談や連絡に BLEND を活用することを今後考えていくと良い。
- 正解を求めることだけを追求するのではなく、児童の考える力の向上が今後の学校教育でも大切になる。そのため、各教科で意識的に児童が考える場面を設ける取組を進める必要がある。
- 本校が定めている当たり前10か条を学年の実態に合わせて、設定することも良いのではないか。
- 学校DXの推進が、職員の業務の効率化に結びつくため、今後も働き方改革を進めていく必要がある。

※特記事項

特になし

記載責任者 竜王南小学校 学校関係者評価委員 氏名：清水 静香